

くじら食文化研究会 おかみさんの会

「おかみさんの会」は、平成19年に立ち上げられました。和田にはその数年前から、「くじら食文化研究会」があったのですが、会員は飲食店の代表者、つまり「板場をあずかる旦那さん」達を中心としたものでした。

従って、活動は主に「くじら料理の開発などを中心として」な内容で、いわゆる「職人気質」の社交下手、発信下手（失礼！おかみさんの言いで）な会だったとのこと。南房総市が誕生して1年、徐々に和田の僻地感・過疎感（かそけ）は増していきましました。

「このままでは『和田』の個性も活気も埋もれてしまつ。和田のくじらを活かして、和田の元気を回復したい」とそんな思いを持った8人のおかみさん達が立ち上げられました。それが「和田くじら食文化研究会 おかみさんの会」の始まりです。「おかみさん」といえば、お店の頭。「手八丁・口八丁」とは大げさかもしれませんが、その社交力・発信力は折り紙付きです。その後、四人の若い男性会員も誕生。



研修会で発表する櫛原会長

早速、その特性を活かした活動が始まりました。「新作くじら料理の発表会」「くじら料理講習会」の開催「各種キャンペーン」への参加、「くじら」に係わる研修会・演会の開催など多岐にわたり、しかも精力的です。中でも、地域の多くの皆様に推す「くじら料理と月見の会」への参加は大切に、出店するばかりでなく運営にも大きな役割を果たしています。第4回に当たる今回は、「火花の打ち上げ」も加わり、今まで以上の盛況でした。また来年も、今年以上に工夫を加え、月見の会を盛り上げたいとのことでした。



おかみさんの会のメンバー

フード・アクション・ニッポン 「フード・アクション・ニッポン」最優秀賞

政府各省が後援する、食料自給率向上を図る国民運動「フード・アクション・ニッポン」の事業の一環として「フード・フォー」が創設されました。そして、食料自給率向上に寄与する活動に、優れた取り組みを行っている事業者・団体を表彰し、広く紹介しようとするものです。

その「フード・フォー」の「啓発部門」は、「食料自給率向上に寄与する普及・啓発活動、地域の活性化、食育等の取り組み」が対象です。

「和田くじら食文化研究会 おかみさんの会」は、この部門の「最優秀賞」を受賞しました。上の段に書いてあるような各種活動が、受賞の対象となったものです。

会長の櫛原八千代さんは、おつしやっています。



フード・アクション・ニッポン授賞式の様子

「おかみさん達の頭の糸がかさ」と行動力・団結力が、このような結果を生み出したのだと思う。しかし、和田のくじら文化は、日本全体の食の動向に対しても敏感になり、調和させていかなければ和田地域の活性化はならない」と…。会では、受賞を記念して、フード・アクション・ニッポン・フード・フォー実行委員長「小泉武夫さん」による現在の日本が置かれている「食の安心・安全」をテーマとした講演会を予定しています。



第4回「くじら料理と月見の会」の様子

発行者 南房総市・NPO法人和田地域づくり協議会「WAO!」
連絡先 南房総市役所和田支所内 地域づくり支援員
電話 支援員 0470-47-5955
支所 0470-47-3111
E-mail qq4u9y89n@royal.ocn.ne.jp

にぎわい部会 の活動から

にぎわい部会では、これまで3回の地域素材を活かした料理の発掘や新作メニューの試食会を行いました。各試食作品はそれぞれ好評で、地域の飲食店や新しくできる地域拠点施設で、商品として提供・販売等が出来ないか検討をしています。

その前段階として、地域の皆さんにそのレシピをお知らせし、各ご家庭で味わってもらい、その反応を皆様からお聞きし、商品化への具体的な検討に入るところと考えています。

お示しするメニューレシピは、左のようなものです。「和田」ミニミニセンター「和地域福祉センター」「自然の宿」の木の展示します。

- やんごめ 白和え からなます
- 赤ませご飯 インソットのすり流し
- アジのさんが シイラのホイル焼き
- 浜大根の若葉とシラス干しの混ぜご飯
- むかご入りのおこわ イカさんが焼き
- 川エビのお好み焼き 猪肉のお好み焼き
- イノシシ肉と出汁で味わう秋そば
- イノシシ肉のトマト煮
- 地の素材を使った各種シエラート
- 漬け物 和田の海水から取った塩



地域の文化・芸能の掘り起こし

「にぎわい部会」ではまた、「地域拠点施設」を中心に「地域活性化イベント」の開催や「地域間交流」を行うという一つの目標を持っています。その際、「和田地域に伝わる文化・芸能」が絶好の素材となり、地域の魅力をアピールしたり、交流の際の橋渡しになったりすると考えます。そこで、第一段階として「和田地域に伝わる文化・芸能」を探ることにしています。そして第一段階では、それらを外部に発信できる形に整えたり、発表する（演じる）人材を育成したりしています。これまでの話し合いの中では、左のような文化芸能が上げられています。この他にも、他地域に発信してできる文化芸能等があると思えます。ご存じでしたら、是非「WAO!」事務局にご連絡いただければ有り難いです。



花園区の綱つり（長者川）



仁我浦区お囃子（松風太鼓）

「小泉武夫先生」をお招きしての講演会

- * 期日 3月20日（火） 午後1時30分から
- * 会場 和田「ミニミニセンター」 3階市民ホール
- * 演題 「食で日本を立て直せ」

- 各地区の祭り・祭り囃子 御輿・木遣り 神楽 手古舞 かつこ舞
- 稚児行列 綱つり

また現在「向西坊供養祭」を通じて「和田町花園地区」が「群馬県安中市秋間地区」と交流を続けていますが、それにも積極的に参加していきたいと考えています。

今年
1月15日
日曜日

柴区御霊神社 えびす講



旧和田町地域には、昔からいろいろな行事が伝えられ、今でもその多くが各集落で行われ続けています。「WAO!」では、地域づくり活動の一環として、それらの情報を集め、この紙上等で皆様にもお知らせしていきたいと考えています。

特に1月は年のはじめということもあり、社寺の行事や地区の催事が多くありました。そのうちの2つを紹介します。



まず区長さん宅から 家内安全・無病息災をお祈りします

柴区では、何時の頃からかは定かではありませんが、地区の「青年」達により御霊神社「えびす講」の行事が行われています。

正月10日に、獅子頭をかぶった青年達が各戸を回り、家内安全・無病息災を祈り、お祓いをして回ります。お祓いが済むと、家人の代表が御神酒でお清めをし、えびす様の絵の描かれたお札を頂きます。

区長さんのお宅から始め、喪中等のお宅を除き、120軒ほどの区民宅を全て回ります。これは1日がかりの大仕事で、昨年は暗くなっても回り切れなかったとのこと。

また忍足区長さんの話では、この行事は、戦時中에서도途絶えたことはなかったそうです。そして、「和田地域で、このような行事を行っている地区は他に無い。是非とも今後も残していきたい!」と、強くおっしゃっていました。

しかし残念ながら、現在の「青年」の人数は5人ほど。1日がかりの行事でも、獅子頭をかぶる交代要員の確保もままならない状態のようです。そのため、青年を卒業した先輩達の援助が不可欠となっています。この日も先輩達が自家用車で伴走し、獅子の所作や回る順番、各戸の服喪の情報などを、折々にアドバイスしていました。確かに、社会情勢や職業構成が変わり、地区の行事と勤め先のシフト調整の困難さなどから、地区の組織や行事への参加が難しくなっている現状があります。



頭をかんでもらい 風邪をひかないように!



昔も今も変わらない風景 幼児はやはり泣き出します!

まずは準備

青年の先輩たちも車で伴走 助言をします

まずは区長さん宅から 家内安全・無病息災をお祈りします

お祓いをして回ります。お祓いが済むと、家人の代表が御神酒でお清めをし、えびす様の絵の描かれたお札を頂きます。

区長さんのお宅から始め、喪中等のお宅を除き、120軒ほどの区民宅を全て回ります。

また忍足区長さんの話では、この行事は、戦時中에서도途絶えたことはなかったそうです。

しかし残念ながら、現在の「青年」の人数は5人ほど。1日がかりの行事でも、獅子頭をかぶる交代要員の確保もままならない状態のようです。

そのため、青年を卒業した先輩達の援助が不可欠となっています。

この日も先輩達が自家用車で伴走し、獅子の所作や回る順番、各戸の服喪の情報などを、折々にアドバイスしていました。

確かに、社会情勢や職業構成が変わり、地区の行事と勤め先のシフト調整の困難さなどから、地区の組織や行事への参加が難しくなっている現状があります。

そして、地区内を回って分かりますが、道筋や各家庭に殆ど子どもの姿が殆ど見えません(昔は、お獅子の後に子どもの行列が出来たとのこと……お菓子ももらえたようです)。

しかしながら、その数少ない継承者のためにも、地域の人々の絆や文化をしっかりと伝えていきたいものです。



剣持先生の習字塾では、みんなそろって記念撮影 習字が上達しますように!



まずは準備

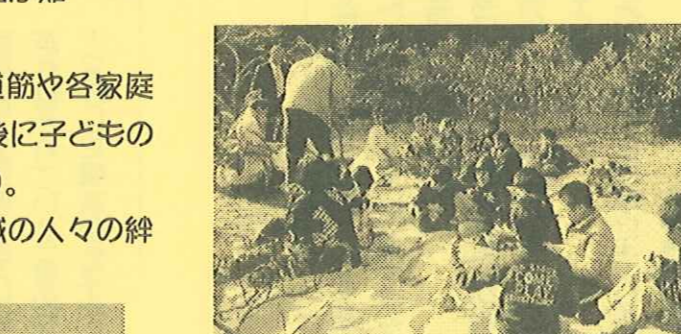


青年の先輩たちも車で伴走 助言をします



まずは吉野さんに説明を聞きました

お祭りとは「初参り」のことで、新聞等でそれが紹介されたこともあり、より多くの人達にその存在やならわしを知ってもらいたいと、お社をお守りする吉野さん・伊藤さん、近所の庄司さんが中心になり、仁我浦区の子ども達に呼びかけ、初参りを計画しました。子ども達は、まず熊野神社前に集まり、「こんびら様」のある場所などの説明を受け、みんなで一緒に「こんびら様」まで上りました。社前では、更に「仁我のこんびら様の由来」や「こんびら様の御利益」、「地域の人達がお参りするわけ」などを聞いた後、みんな



みんなでお弁当 くじらのカツの差し入れも



昼食の後は、吉野さんの畑でミカン狩り!

仁我こんびら様 はつまいり



こんびら様 (宮毘羅大将)

1月10日
火曜日

「わだすき10月 おほぎ山のぼわんぼわん」

号で「おほぎ山のぼわんぼわん」を紹介し、「仁我浦のこんびら様」

のお祭りが毎年1月10日に行われていることをお知らせしました。

お祭りとは「初参り」のことで、新聞等でそれが紹介されたこともあり、より多くの人達にその存在やならわしを知ってもらいたいと、お社をお守りする吉野さん・伊藤さん、近所の庄司さんが中心になり、仁我浦区の子ども達に呼びかけ、初参りを計画しました。

子ども達は、まず熊野神社前に集まり、「こんびら様」のある場所などの説明を受け、みんなで一緒に「こんびら様」まで上りました。

社前では、更に「仁我のこんびら様の由来」や「こんびら様の御利益」、「地域の人達がお参りするわけ」などを聞いた後、みんな

で記念写真を撮りました(翌日、房日新聞にも記事が載りました)。

周りの木々が大きく育ってしまったため、社から海を望むことは出来ませんが、緑に包まれたほの暗さはまた違った「厳かさ」を感じさせ、吉野さんのお話も子ども達の心に深く染み入った様子でした。

その様子を見ていた筆者は、ここで「おほぎ山のぼわんぼわん」の読み聞かせがあつたら、安心・安全に対する子ども達の思いもより大きくなつたらうと、密かに思つたものでした。

「こんびら様」を下りた子ども達は、吉野さんのミカン畑で庄司さん差し入れの「くじらのカツ」と一緒に持参のお弁当を食べ、ミカン狩りをしました。しかも袋一杯のミカンがそのままお土産に……。

仁我浦の子ども達にとって、この日は「地域の伝統行事」に触れるという機会に加え、楽しいピクニックの1日となりました。「このような有意義で楽しい行事が、今年だけでなく来年以降も続くことになる」と素晴らしいな、手づくりの地域活動を感じた1日でした。



手を合わせて、一人一人願い事を!

仁我浦子ども会の3~6年生です この日は17人が参加



記念写真を撮りました(翌日、房日新聞にも記事が載りました)。

周りの木々が大きく育ってしまったため、社から海を望むことは出来ませんが、緑に包まれたほの暗さはまた違った「厳かさ」を感じさせ、吉野さんのお話も子ども達の心に深く染み入った様子でした。

その様子を見ていた筆者は、ここで「おほぎ山のぼわんぼわん」の読み聞かせがあつたら、安心・安全に対する子ども達の思いもより大きくなつたらうと、密かに思つたものでした。

「こんびら様」を下りた子ども達は、吉野さんのミカン畑で庄司さん差し入れの「くじらのカツ」と一緒に持参のお弁当を食べ、ミカン狩りをしました。しかも袋一杯のミカンがそのままお土産に……。

仁我浦の子ども達にとって、この日は「地域の伝統行事」に触れるという機会に加え、楽しいピクニックの1日となりました。「このような有意義で楽しい行事が、今年だけでなく来年以降も続くことになる」と素晴らしいな、手づくりの地域活動を感じた1日でした。

昼食の後は、吉野さんの畑でミカン狩り!